

日一十月一十年四正大

# 報情外内

號八十五百第

11 2 3 4 5 6 7 8 9 21

目次	
支那	東南時局要録……………一
	閩省上游の匪風……………八
	閩省下游最近の局勢……………九
	廣東及汕頭情報……………〇
	西江盜匪の肅清……………一
	東江戰役は終に蔣軍の利に歸す……………三
	沙面開放後の罷工委員對策……………六
	廣西全省軍隊の編制換……………七
	廣西邊境重れて客車の禍に遭ふ……………八
	雲南廣西近事……………〇
比律賓	比島糖業の今昔(下)……………二
佛領印度支那	新總督パレンヌ氏の聲明……………三
馬來半島	英領馬來本年上半年貿易……………元
	南洋企業に對する考へ方の變化……………三
	本年上半年の新嘉坡輸入石炭……………三
蘭領東印度	一九二三年度蘭領東印度の油椰子……………三
	煙草及咖啡栽培面積(三)……………三
	蘭領東印度經濟界概観……………三
英領印度	孟買反物市場と輸入の増加……………三
	一九二四年度船籍別比島船舶出入表(續前表)……………三

課查調房官督總港臺

一九二四年度船籍別比島船出入表 其一

船籍	入		出		噸量	價額(比)
	純噸數	噸數	純噸數	噸數		
米島國	11,377	11,377	11,377	11,377	1,544,775	4,444,444
比國	10,201	10,201	10,201	10,201	1,433,333	3,333,333
支那	7,000	7,000	7,000	7,000	900,000	2,222,222
英支那	3,000	3,000	3,000	3,000	300,000	777,777
丁蘭	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
佛蘭	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
獨逸	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
伊國	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
日蘭	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
諸巴	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
西馬	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
瑞典	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
郵班	1,000	1,000	1,000	1,000	100,000	250,000
合計	49,000	49,000	49,000	49,000	6,300,000	15,777,777

情報

支那 東南時局要録

急轉直下の五省聯軍 浙江の孫督理傳芳は十月十六日午後一時、督理公署に各官長を召集し、下の如き挨拶をなせり。「余今晚出發するに就き本公署に留守の各位は均しく後方の戒備事宜に任じ、一切を辦理すること極めて重要なり。地方に若し事件發生すれば立ちどころに法に依りて嚴辦すべし。之に對する諸君の配意努力は皆莫大の功なりとす。現に戰事期内に當りては、中央北京政府より如何なる命令を頒布し來るとも、本公署は一切之を處理するを要せず。又參謀處に囑して起草し、省長に咨會し中央政府と脱離の手續をなせり。終に臨み更に一言せん。余は諸君と暫く別るべきも後會は甚だ長ければ、諸君は必ずしも吾行を送られざるべきを祈る。本署の事務は全く諸君の御配慮に依る」云々。かくて孫傳芳は衛隊及び憲兵二營を從へ、其の夜八時四十五分杭州より特別列車にて出發嘉興に至り、停車三十分該處の軍隊を檢閲し、竝に各軍官に對し訓話を爲し、畢りて直ちに上海に向ひ、十七日午前三時零八分新龍華站到安

著、在上海の謝鴻勳司令劉參謀等に迎へられ、謝司令等よりの軍事方面一切の布置情形の面陳を受け、三時三十二分謝司令の乗り來りし三等車にて上海北停車場に赴き四時下車、停車場に在りし各旅團營は皆次第に參謁し機宜の指揮を請ふ。孫氏は輕車にて從兵を減じ、參謀衛兵五六名を隨へ頭に絨線帽を戴き身に大衣を著け從容として迫らざる態度を以て、驛長共に詢ふ所あり、さて云ふ様、自身は近來軍事の爲め忙しき爲め稍頭痛を覺え居ればかく一つの絨帽を頂けるのみと、言ひ畢りて微笑を浮べ何事にも頓著なきものゝ如し。停車場に留ること約三時間、七時汽車にて龍華に、八時二十五分嘉興に向ひ同十一時到着、此れより民船に移り午後四時嘉興を離れ蘇州に向ひ出發せり。隨ひて十六・十七・十八日に蘇州に水陸各方より來集せる軍は第二師五千人(胥門外に駐屯)第七旅一團・王滯溼よりの浙軍・上官一團等あり。五省聯軍總司令部は現に松江に設置せらるゝも、將に移りて蘇州に置かれんとす。(十月十八日新聞報)

孫軍宜與占領 孫軍部隊は十六日午後二時進んで宜興城を占領し、知事竝に警署長を易へ、全部常州に向ひて發し、邢部は今已に常州を明渡せり。(十月十七日常州電)

南京楊宇霆の退讓 南京の秩序は通常の通りなるが、楊宇霆・鄭謙は大局を顧全するの餘和平を主持するに決し、已に通電して其の意を表示し、竝に陳調元を保安司令と爲し徐鼎康を省長の代理とし、更に鄭謙は吳晋に委するに省警備隊と裁撤されたる水陸警備隊とを以て併合して

組織替を行ひ、改めて保安隊司令部と爲す。

楊の宣言 楊宇霆は十七日午後五時軍署に在りて丁喜春・邢士廉等を召集して軍事重要會議を開き、通電を發して宣言して云く、宇霆命を奉じて江蘇に督となり、民生の凋敝を痛むの餘、時局危疑の會に値ひ、志民と休息し和平を尊重するに在り。然るに近日偵報頻りに來り、浙江方面は實に軍事行動あり。初には謂ふ其の秋操期近くして微調稍煩なりと。亦意中の事に屬す。又上海の駐兵は本と上海事件發生後治安保護上一時機宜の計に係る。現在江蘇の警務處が既に上海に移り治せるは地方の秩序を維持せる爲なり。已に正式に責を負ふの機關あれば即ち再び軍隊を駐むるの必要なし。因りて十四日に命を下し駐むる所の邢師を撤退したり。料らざりき邢師の始めて移動するや、浙江方面は十五日に於て大舉して兵を擧げ、竟に江蘇省管轄の境域たる上海を武力にて完全に占領し、且つ上海を去る數百支里の宜昌縣にも亦浙江方面大部の軍隊ありて同時に進逼せり。師の出づるに何の名あるか。百思するも解されず。唯宇霆は始終和平の宗旨を抱定して部下を約束し漸を逐ひて退讓せしむ。實に鄰封の私闘を以て重ねて吾が民を苦しむるに忍びざればなり。特に此に宣言し聊か以て意を見はす云々。

奉軍浦口に退守 聞く奉天軍第八師團所部は十八日已に移りて浦口に至り。此地に駐紮せりと。(以上十月十八日南京電)

丹陽の開戦 那士廉部軍隊は已に江邊に退き、十七日撤防を聲明し、江寧に向ひ、所部を下關に移駐せしめ、江陰なる駐澄軍隊の出發するや、十七夜三營の浙軍ありて澄州を經過し、又楊州にては第三補充旅一營十七日に汽船に乘じ楊州を通過し裏下河に駐れり。孫傳芳は十八日朝軍艦にて江蘇に到着し齊門に碇泊すること約一時間、貝・季兩商會長及び王知事を見、仍は水路より無錫に赴き、浙軍第七混成旅及第二師は十八日午前二時無錫に至り、午後三時九列車を分ちて其の地を過ぎ、武進丹陽に向ひ進發し、新水上警察廳長沈保義は十八日正午游擊隊を率ゐて無錫に至る。盧香亭の浙軍は已に丹陽の南十里ばかりの所にて奉天軍と接觸したれば、孫傳芳は各停車場に打電して車輛の無錫驛に集中すべきことを命ず。蓋し無錫に大本營を設置し、孫氏十八日晚方に無錫に到着すべし。(以上十月十八日南京・無錫・蘇州・揚州諸電)

蘇州軍報 蘇州驛には第三總兵站を設け、水上警察廳長沈保義は十七日夜就職の後隊を率ゐて無錫に赴き、何嘉祿は蘇州にて緝私統領の職に就き、浙軍第三軍の二・三の二路に係る著蘇の軍隊は、十八日に十三列車に分れて江蘇より常州に至り、僅に憲兵三十人を留め、蘇州にて秩序を維持せしめつゝあり。(十月十八日蘇州電)

蚌埠の會議と徐州軍報 奉天系姜登選は江寧より蚌埠に返り、十七日午後督軍公署にて軍事會議を開きたるも内容甚だ密にして傳はらず。蚌埠に駐れる劉旅の全部は十七日正午蚌埠を離

れたり。又第二旅邱培濬團は十七日蚌埠より出發して徐州に集り、第二旅長劉偉も亦至り、柳泉に駐れる姚霽旅長の兵士も四營だけ、又孫鉢傳も濟南より同じく徐州に來る。是に於て徐州の守備の注意せられたるを見るべし。(以上十月十七・十八日蚌埠・徐州諸電)

吳佩孚は浙孫を助く 吳佩孚は仍ほ岳陽の決川艦中に在るも、已に出山の意あり。されば十八日附電報を以て關係を有せる各省へ通電して曰く、此次浙江軍は奉天軍を驅逐して永久の和平を謀る。凡そ我が同志は亂を戡ち國を救ふに具に同情あらん。特に各省に打電し羣策羣力を擧げて同聲響應せんことを請ふ云々と。隨ひて外間には吳氏は即日漢陽に來り師に誓ふならんと傳説あり。(十月十九日漢口電)

楊・鄭江寧を離る 楊宇霆は十八日夜二時丁喜春・那士廉と、もに倉卒大江を渡り浦口に赴きて事務を見る。奉天軍の一部は鎮江に在り、一部は下關に在り。泥濘車輛の留められて南京停車場に在るもの甚だ多し。省長鄭謙亦時局の維持する能はざることを通電し、十九日午前十一時半王桂林と同行汽動車に乗じて省長公署を出で去る。是より先鄭省長は省長の印章を徐鼎康に交付せんとしたるも、徐之を受けざれば直ちに各界人士を召集して會議を開き代理省長問題を解決せしむ。乃ち政務廳長鄧邦造を共同推薦して代理省長とす。是に於て鄭始めて汽動車に乗じて江寧を離る。同十二時鄧代理省長善後方針を宣示して云く、余鄭謙の委託を承けて江蘇

に在りて務に服し、身亦奪人に係る。地方の安危は匹夫にも責ありと。又警察廳長趙仲英云く、凡そ警察界に服務する各員は多く北京天津の人に係る。江寧に在ること十餘年にして身家財産の過半は江蘇に付託しあれば、余は必ず良心に本づきて事を處辦すべしと。かくて其日の午後には陳調元已に督辦公署に至りて事務を見、幫辦の名義を以て省城の秩序を維持し居れり。同時に傳へらるゝ所によれば重要な某參謀は遂に拘留せられたりといふ。尙ほ江寧交渉員廖恩瀾は潜に北京に歸れり。(十月十九日午後—南京電)

南京第八師の武装解除と衝突 丁喜春所部の東北第八師の一小部分が十八日夜軍署より江寧省小汽車に乗じて出發せんとする時、第四・第十兩師團の知る所と爲り、無理に武装を解除せらる。十九日朝八時迄にすべての結束を終り秩序常に復し、軍警は一戸／＼に捜査を爲し、全城の商店・茶寮・酒肆は一日だけ停業し、儀鳳・聚寶の各門は皆開かれたり。此の役に奉天軍の糧食兵器等を獲ること極めて夥しく、皆保安司令部に送りて之を貯藏したり。陳調元・鄭俊彦の兩師團長は第八師を解散せしめたる後江蘇軍將領を會同し、共同一致白寶山を推して江蘇軍總司令とし、同時に白總司令に打電し、日を尅して江寧に來り一切を主持せんことを請ひ、一方又聯署して居民に布告し、各生業に安せしめたり。(十月十九日—南京電)

姜登選の態度 安徽督辦姜登選は曾て十五日午後六時江寧に到り、江蘇督辦公署の重要會議

に列席し、浙江側に對するに退讓を首とし、某地に至り始めて抵抗すべきを決定し十六日夜蚌埠に返れるが、津浦鐵道沿路は尙ほ未だ軍隊の移動なく、亦戰爭準備の形跡なし。僅に濟南に空軍二百餘輛を控へ居り、蚌埠に約數十輛を留むるのみ。されど鐵路局よりは密令を發し邢士廉及所部重要軍官の眷屬は多く十六日の津浦第四回の列車にて北上し了れり。かくて姜安徽督辦は孫傳芳に電告して云く、請ふ兵を用ひて人民に禍すること勿れ。苟も政見の合せざるあらば、思ふ様に互に相談して辦理すべし。登選願はくは力を竭して斡旋し、同時に蔣百器に中間に在りて疏通を謀ることを請はんと。(十月十八日—徐州蚌埠電)

北京方面の調停盡力 十九日夜莫德惠は奉天に赴き時局の協商を爲し、段氏は薛篤弼を包頭鎮に遣はし、馮玉祥に江浙の軍事を調停せんことを請はしめたるに、馮は屬員に訓命し、各々地方を以て重しと爲し、時局に對し輕々しく主張を發することなかれと云ひ、曾毓雋は奉天より打電して奉天側の仍ほ和平を主とし、張作霖氏は決して天津に進み來らざるべきを説き、吳光新は二十一日、日本より奉天に還り、近きに就きて張作霖と協商すべきを北京に打電せり。然るに執政府の消息によるに、孫傳芳は北京より發せる原防地に退守せよとの命令に對し、終に返電なしといふ。(十月十九日—北京天津電)

河南省の態度 岳維峻の代表馬驥は連日中央政府と打合せ、河南省は渦中に入らざる決心な

るが、只中央政府より軍餉の協助ありたしと求めたるに、政府は已に翌月よりして二十萬元づゝの定額を指定支給することとなり、馬代表は即時北京を辭去せり。(十月十九日—北京電)

漢口方面の消息 湖北各界聯合會・民治協會・國民外交協進會は聯合電報を發して浙江孫傳芳軍に響應し張作霖を討伐するの意を表示し、蕭耀南は改めて杜節義を擧げ漢陽兵工廠總辦と爲せり。

福州方面の助浙 周蔭人督理は已に聯軍第三路總司令に任せられ、第十二師全部と騎兵・砲兵各一團づゝと衛兵一箇旅と第三十旅蘇挺の全部とを率ゐて浙江に赴き前敵戰線に加入し、第二旅重勝標・第四旅張慶烈・第五旅吳大洪・第二十九旅孔昭同・補充旅蔣啓鳳等の部を留めて福建省を守らしめつゝあり。(十月十九日—福州電)

### 閩省上游の匪風

這般閩省上游の通信に據るに曰はく、舊曆七月二十七日(九月二十四日)永安より一艘の巨船解纜して貢川下溪口の地方に至れるに突然數十の土匪に遭遇せり。該匪徒は同船を見るや否や逸早く船上より箭紙を勒捐せり。適々軍隊のこゝを經過するあり。警報を聞くや直に發砲し匪徒等も亦應砲すること二時間の久しきに亙りたるが終に匪族は一旦退去を爲し、軍隊の經過

後又復攻め來り、前の軍隊を客商の請來りし所のものを疑ひ、怒を商人に遷し該船の箭紙等あらゆる貨物を盡く焚き棄てたり。翌日出發の二船も亦斯の如し。査するに此次永客常豐九等號及連城客の損失は五・六千金を下らざること明かなり。本月九日龍安郷の住民にして土匪に掠奪されたる者十三人に及び翌日柳城郷も亦焚かれ奪はれたり。安砂洪田西華堡下の回嵐等の處も均しく過酷に糧食等を徵發されたり。而して沙縣下の高砂郷は則ち六日の夜に於て匪徒の爲めに寸草も残らず焚き毀されたり。泉州省城(離城)を離るゝこと十支里の琅口郷も亦九日夜に土匪の祟りにて全部火の海と化せり。噫永沙の土匪横行すること上の如し。省當局にして若し相當の辦法を講ずるにあらずんば則ち到る處に蔓延し上游の人民は恐らく職に安んずるもの無かるべし。地方に責め有る者は如何なる方法を以て之を收拾し以て倒れんとするこの懸案を解決すべきや。(十月六日—閩報)

### 閩省下游最近の局勢

近來安永の方面は又漸次多事の境涯に趨き下游の形勢正に變化の醞釀中に在り。その將來の趨勢を知らんと欲せば當さに先づその目下に於ける情形を知るべし。陳國輝・陳國華及吳威・楊漢烈は皆安永間の重要人物にして此の四人中陳國華は已に改編を受けて第四旅と爲りたれば完



全に省側の支配を受け居れるを除くの外、外に陳國輝の野心を以て最も大なりといふべし。陳國輝は近頃吳威・楊漢と共に決裂せり。陳の意は頗る此兩部隊を收容して己の用と爲さんと欲するも、その實力は殊に未だその支配に歸せしむるに足らず、而して吳・陳兩部の策士軍人連中は亦未だ陳氏を尊崇すること能はされば、今回德化の役に陳國輝はつひに失敗し、現に已に南安の英都に退き往けり。吳威の軍權は久しく已に尤賜福の手に落ち、目下吳は省方の編制を受けたりと雖も、しかも尤賜福は頗る異志あり。最近尤賜福及葉定國・陳錚・楊學良等の間には均しく聯絡あり。但し高義失敗の般鑒遠からざるを以て各路の民軍頗る慎重を持し居れば一時に動作する所有るに至らざるべし。省側にては民軍の内訌に對し絶對に干渉せず亦如何なる一方の意に任せて援助せず、唯だ下莊が虎を刺すの效を收むるに在り。將來若し民軍の内訌日に亟んるときは民軍の福利に非らず、則ち安永の地盤は終に民軍の所有に屬し省軍の過ぎて問ふべき所に非らざるべし。(十月九日一國報)

□廣東及汕頭情報

廣東と沙面との接近 廣東政府より英領事に沙面の防備撤退方を交渉せしに對し、防備は撤退せざれども、本月二十六日より英國橋を開放し、從前通り一般の通行を許す豫定なりと回答

せりといふ。右は殆んど確定的のものにして、兩者の接近を示すものと見らる。

罷工終熄の政府訓令 數日前より廣東政府は罷工團に對し罷工を止むる様訓令する所ありしと風評あり。

廣・香代表者の協議 來る二十六日廣東・香港各代表者參集の上罷工解決に關し協議する筈。

(以上十月二十三日著一廣東情報)

東江戰の結果汕頭に及ぶ 陳炯明軍東江方面に敗戦したる爲め、汕頭の政情不安に傾けり。

(十月三十日一汕頭情報)

□西江盜匪の肅清

年來西江流域の各地は水陸の別なく均しく盜賊の在らざるはなく、從つて據拠の案は殆んど絶ゆることなし。ために交通は梗阻され行旅は途に妨げらるゝこと一再ならざりき。されば當局は西江一帯の盜匪に對し嚴重に剿辦を行ふべきことを決定し以て地方を靖からしめんとす。聞く、今その計劃を探ぐるに中順兩屬の東西馬寧・然歌咀一帯の河道は、將に革命第五軍より隊を派して剿辦に赴かしめ、而して肇慶以上の一帯は革命第四軍より清除を擔任することに決定せり。刻下同各軍は已に辦法を擬定したれば、時日到來次第必ず水陸時を同じうして剿辦を

始めて匪徒をして逃竄の途をなからしめ徹底的に肅清すべしと云ふ。(十月十四日一七十三行商報)

□東江戦役は終に蔣軍の利に歸す

楊坤如の反共産 惠州城に盤踞せる楊坤如は一日反共産の通電を發して曰く、蔣賊は我が粵軍を消滅し、我が廣東に占據して共産を實行せんと欲す。今汝が君たる許氏の爲め仇を復し陳競存公を擁戴し、爰に師旅を整へて妖孽を清めん云々と。

蔣介石の之に對する法 蔣介石は左翼部隊に命じて増城に集り河源を攻めしめ、右翼は龍崗に集りて淡水を攻めしむ。(以上十月十二日一香港電)

李濟琛・陳銘樞の兩部は右翼に任じ、已に出發して平山に至る。此の方面は陳軍との距離尙ほ遠し。蔣部學生軍教導團は左翼に任じ、石灘に到るもの八千餘人あり。蔣介石親しく往きて布置を整へ、現に増城・龍崗に向ひて進發す。此の方面の陳軍は僅に河源に到るのみにて未だ接觸せず。何應欽の全部は石灘に集り、増城に移りて左路の主力軍となれり。(十一月十三日一香港電)

蔣・楊の對峙 蔣介石は何應欽を派し、黨軍八千人を率ゐて廣九鐵路線より進んで惠州に逼り、胡謙・吳鐵城部五千人は平湖より淡水・平山に進み、陳銘樞は湖南軍と協同し、七千人を以て増城を出で、龍門・河源を攻め、蔣介石は石龍に駐りて中心點となり、此處にて指揮を取れり。

之に對する粵軍左路は三多祝に達し、右路は龍門に至り、中路は楊坤如部にして博羅に進み、一軍は河源に入り李易標と會合し、鄧本段は恩平を占領したれば、江門之が爲めに震動し、省河の船便は梗塞し省民大に恐慌に陥れり。且つ蔣軍の羅翼羣部は現に楊軍に包圍せられ居れり。(十月十四日一香港電)

黨軍擊退せらる 楊坤如は黎旅を派して河源に入り、李易標と合し、蔣介石は黨軍陳青雲一團を加へ、更に湖南軍陳嘉佑の二團を増し、龍門に出で陳銘樞と會して敵の左路を撃ち、樟木頭の學生軍は七日粵軍張和旅に撃退せられ、下南・鐵崗・蘇村等の學生軍・黨軍は十四日に省城に召回せられ、石龍より以上には黨軍の踪跡なし。(十月十五日一香港電)

東江戦内應の爲め解決 十二日、蔣介石は黨軍を率ゐる廣九鐵路に沿ひ三路を分ちて前進し、一は清溪より出で、惠州の左面を攻め、一は蘇村・茶園より惠州の右面を攻め、一は蔣は自ら學生軍三千と吳鐵城部を率ゐて惠州の正面を攻む。清溪・蘇村を守る粵軍は一たび黨軍と接觸するや直ちに背退したれば、蔣軍猛進して惠州城を包圍せり。楊坤如は城に據りて抵禦しけるに、十三日朝黨軍何應欽・吳鐵城部は飛鷲嶺を占め進んで惠州を攻む。北門に向へる譚・朱兩部は橋を掛けて河を渡り、露軍砲隊猛攻す。時に城中の駱鳳翔部は黨軍に内應したるを以て譚部北門より入る。楊坤如は如何ともするなく全部軍隊を率ゐて南門より出で觀音閣を経て河源に入り、





李易標部と會合せり。是より先十二日、蔣介石は汪精衛・伍朝樞に打電して云く、十二日、部を率ゐて前進せり。敵は風を聞いて逃れたるに、楊坤如は陳炯明の命を受けて我れ應戦すと聲言し、叛狀大に明なり。我軍惠城外に雲集したれば該城は日を指して下すを得べしと。然るに略の内應により蔣軍は手を勞せずして落城せしめたる譯なり。

一黨政府の勞軍使 廣東衛戍司令部より十三日附訓令を以て黨軍の惠州城を攻取せしことを布告したるに、國民政府は蔣介石に打電して之を嘉獎せる外、ボロヂン將軍・古廬芬等を派して前線に赴き物を携へて戰勝各軍を慰勞犒賞せり。尋で何應欽は惠州警備司令に命せられたりと傳へらる。(以上十月十六日十七日香港電)

許部等の獨立守勢 許部張和・余鷹揚は平山を守りて獨立を宣布し、羅翼華は李易標と聯合して河南を守り、盤口は熊略より防禦陣地を布き、老隆は黎生張化如より防禦し守勢を取る。

海容・永建等艦長の援陳 海容・永建等の艦隊は陳炯明と會商の結果、瓊州に赴き鄂本段を助けて西江を攻めんと欲す。

廣東船政署の戒嚴布告 廣東政府船政局は虎門に戒嚴を宣布せることを布告し、水雷布設しあれば往復船隻は一切謹慎するを要するを示せり。水雷の裝置は海軍局長スミノフが親しく中山艦にて行島厓門に赴き實際に布設したるなり。

陳使を許に派す 陳炯明は委員を派し、許崇智の秘書長馮祝萬と共に上海に赴きたるが、用件は許氏に勸めて廣東へ返らしむるやうするに在り。(以上十月十六日香港電)

陳銘樞は南征軍司令 十六日蔣介石は博羅より惠州に赴き、同時に陳銘樞を南征軍司令とし、鄂本段を解決せしむ。

李易標龍門を攻めんとす 十五日李易標・責任責は河源より泰尾に進み直に龍門を攻めんとす。

米國華僑致公堂の激勵 米國華僑致公堂は陳炯明に打電して云く、海陸軍權を露人より管理すといへば、中國未だ亡びざるに廣東先づ亡びたるなり。當地方にては政黨を組織し公を擁して首領と爲し、唐林を副首領とし、同時に積極的籌餉をなさんと。是に於て陳炯明は陳應權を派し米國に赴きて打合を遂げしむ。

廣州への運糧等を禁ず 潮州監督黃強は天津・上海・廈門の各關に打電し、告ぐるに上長官の命を奉じ軍用品糧食を廣東へ運送するを禁せる旨を以てせり。

衛戍部の偵査嚴密 衛戍部は公安局に命じ、平時陳炯明・魏邦平の關係ある人と相結託するの行爲ありや否やを偵査せしめつゝあり。(以上十月十七日香港電)



□沙面開放後の罷工委員對策

廣州・香港罷工委員會は沙面の東西兩橋開放の結果、特に布告を發し各界人士の猥りに前往すること勿からんことを求めたる文に云く、現に諜報に據るに沙面の東橋西橋は均しく開放せらる。此れ外國人が深く我が人民の能く文明秩序を守り、政府の統轄する權能あることを信せる旨を徴するに足る。但し本會は奸徒が罷工を壞ることを豫防せん爲め、嚴に監視を加へて功を全うせしむ。糾察・偵査等に命じ嚴密に巡察せしむるを除くの外、特に中外各界に布告す。若し未だ本會より特許證を受けざるものは、切に猥りに沙面に前往すべからず。若し之に反するものあらば、緝獲せらるゝや否や、定めて必ず嚴重に懲處せん。本會は人民の公意を秉承し、國家を維護するの舉に對し、力を盡して執行せざるなし。危險を冒すと雖も亦恤えざる所なり云々と。

又昨十六日沙面東橋を見るに其の右傍なる小鐵門は平常の如く開放せられ、門内には武装せる佛國兵一名ありて守衛せり。若し人の出入する時に遇へば、該佛國兵は直に鐵門を開きつゝあり。然れども西橋方面は英領事館が未だ命を下さず。聞く是の日支那人の沙面臺灣銀行に赴き銀元を受取ること三回あり。又同日午後二時西洋婦人多数が手にカバン六七箇を持ち歩行して

沙面の東橋に出で、車を喚んで東山に赴かんと欲したるに、更に一張の車とてもなければ、已むを得ずして沙面に引返せり。

又是の日英領事署にては沙面なる各國商人を召集して會議を開きたるが、其の内容は沙面交通恢復後各國商人と英國商人との一切の往來關係及び沙面の治安等に關する事項なりき。是の夜ヴィクトリア酒店にて六月二十三日沙基慘殺事件の畫片を活寫せりといふ。

(十月十七日—廣州民國日報)

□廣西全省軍隊の編制換

從來廣西の軍隊は隊名種目繁雜にして編制紊亂せるが、僅かに之を大別して第一軍李部第二軍黃部と謂ふに過ぎざりき。現に李・黃二氏は省内の漸次平定せるを以て、特に全省軍隊を國防・省防の二軍に分ち、前の第一・第二の名目を取消して軍務署の直轄に歸し、九月二十八日全省各軍事機關に打電通知したり。今左に其の概要を摘まん。

軍政方面は全省軍隊を改編して國防軍及省防軍とし、國防軍を廣西陸軍と爲し、其の最高單位を旅とし、一旅に兩團を管轄せしむ。又省防軍は名けて廣西陸軍游擊隊とし、其の部隊の大小は國防軍の編制完成の後情勢の宜しき所に隨ひて規定を爲し、國防軍は切實に之を整頓して

勁旅と爲し、省防軍は土匪を剿辦して地方を綏靖せしむ。但し部隊の改隸分合と團營連の兵員武器は別に明令を以てすべし。又軍務署に一の軍醫處を設け、所有各部隊・各醫院の需要する衛生材料及器具は一切該處より支給し、購買品は梧州黃部農主任より之に任ずといふ。

(十月十七日—新聞報)

□廣西邊境重ねて客軍の禍に遭ふ

廣西省は民國十年より後、客軍の禍を受くること十二分に至りたるも、今は漸次に境を出で去りたれば廣西人は稍枕を安うして睡るを得んと思ひ居りしに、何ぞ料らん虎の跡に狼來り邊隅の地又警を告ぐるに及べり。今各方面に就き別説すること次の如し。

(甲)南方の粵軍 廣西の南方鬱林州の屬地は廣東の高州と接壤せるが、高州の將領呂春榮は自ら鄧本殷・黃志桓と交戦せし後、力敵する能はずして逃走し、遂に鬱林の邊境に竄入せり。李宗仁の駐鬱行營曾主任は其の潜に縣城に入らんことを恐れ、遂に紳商と會議し邊隅の地たる平政圩・榕木圩・大倫圩・青灣圩・六靖汛・溫水圩・白馬坡の各地を指定して其の暫時駐紮の所と爲しぬ。何ぞ料らん該軍は異常に煽強にして、竟に黃營長より兵一營を率ゐて陸川縣城に入り駐れり。此の外尙は四千餘人の兵は城外より鬱林交界のところまで皆其の地に就きて籌餉する爲め

非常の騷擾を起したるが、地方人士は已に之に對する兩策を籌劃せり。即ち一は客軍に通りて境内を出でしめ、一は之を改編するに在り。然れども省當局の之に對する方法如何を知らず。

(乙)東方の粵軍 廣西の賀縣は廣東の連山と接壤し、四川軍熊克武が省境を過ぐるに當り備に騷擾の苦を嘗め現に尙は喘息しつゝあり。熊氏が廣州にて拘留せられたりの傳説出づるや、連山の邊鄙に駐れる四川軍は竟に千餘人の桂嶺圩に竄入するあり。該圩は元來弓に驚ける鳥の如くなるに、又四川軍の言語通せざるあり。從來四川軍を監視せる部隊が他方面へ出發を命ぜられて去りしより、更に四川軍の心をして忌憚する所なからしめたり。地方團體も曾て縣知事に取締を請ひたるも何の效もなく、富家は已に他に避け匿るゝもの多く、爲に去る能はざるものは愈多くの負擔を重ねることゝなれり。此の外又蒼梧縣屬沙頭圩には粵軍李濟琛新編の游擊司令莫國華部の馮營長の來り駐れるあり。先づ該圩の商會に五百元の籌款を命じ、次に該圩の商店を分ちて三等と爲し、日々の糧食を供給せしむる爲め、甲等は十五元、乙等は十元、丙等は八元の割當をなせり。商人等は今迄已に頻りに徵發せられ元氣未だ復せざるに、かゝる小圩市のことゝて交易買賣あるも毎日粗蠅頭の微利を獲るに止まれば、斷じて籌餉の巨費を負擔し難し、遂に九月三十日一律に罷市を行ひ、其の別に巨餉を勒取せられたる少數の商店は爲めに潜逃するの已むを得ざるに至れり。是に於て馮は遂に別に部隊を派し附近の石橋圩に至り商

會に向つて四百元を強征したれば、該坪も亦多く商業を停止せり。

(丙) 西北方の雲南軍 百色は范石生部が歸滇の孔道なれば已に幾多の供應を爲したるが、今や范氏の失敗せる後、殘部軍隊尙ほ百色に收容せられ、餉糈は廣西省より供給せられあり。四川軍廣東軍の如く野蠻強暴ならざるも、范氏の現在招募せる兵は四川・湖南及び外省のものにして、言語通せず賣買上常に衝突を生じ易ければ、之を要するに廣西省の福には非なるなり。

(十月十七日新聞報)

### □雲南・廣西近事

唐繼堯三旅を以て劉を助く 劉震寰は十五日に復た雲南に赴けり。聞く唐繼堯は三個旅を發し劉に交付し統率して廣西に返らしむべく許可せり。(十月十六日香港電)

唐の援陳 唐繼堯は陳炯明に電告して云く、今龍雲及胡若愚を派し部を率ひ廣西より廣東に入らしめ、林俊廷・沈鴻英部に命じ潯州・柳州に在りて響應せしめたりと。

對沈の黃紹雄 陳銘樞は十一日梧州に到着、黃紹雄に晤し、黃に西江上游の警備に任じ、兵を派して懷集に駐らんことを請へり。此れ沈鴻英が軍を率ひて賀縣の姑婆山に在り、懷集廣寧を経て肇慶の背後を撫せんとして聞きしに因る。(以上十月十七日同電)

### 比律賓

#### □比島糖業の今昔 (下)

左に掲ぐるは、比島商工局が該問題に關して述ぶる所である。

『比島の糖業は近年跳躍的の進歩を告げつゝある。一九一八年度に、砂糖は米・馬尼拉麻・椰子に亞ぎ主要作物中第四位を占めた。當年度の甘蔗栽培面積は二〇五、五〇〇ヘクタールで、總額四一、二五八、八〇〇比を生産した。一九一八年度は栽培面積二〇〇、〇〇〇ヘクタールであつたが、颱風其他天候不良等の爲め産額は比較的少かつた。而して當年度は砂糖三七九、一二七、〇〇〇研、パノーチヤス三二、一四五、〇〇〇研、バシー(イロカノの飲料)八、七一七、〇〇〇立突及び糖蜜二、〇三八、七〇〇立突の取引あり、之の概算總額は七四、四六二、八〇〇比で、砂糖のレコード價額を示した。

一九二〇年度の該栽培面積は約一九七、四〇〇ヘクタールで、十年前の夫れを凌駕すること七、〇〇〇ヘクタールであつた。一九二二年には、砂糖は凡ての記録を破り、米に亞ぎ價額に於て本島第二位産物となつた。其の栽培面積は二四二、四〇〇ヘクタールで、之れより砂糖五一〇、一七二、〇〇〇研、パノーチヤス二四、五六三、〇〇〇研、バシー八、〇四〇、〇〇〇立突、糖蜜七、五二五、〇〇〇立突、總額九六、三七九、〇〇〇比を生産した。一九二二年に於ては栽培面積は二



四〇、八二〇ヘクターに減じ、概算産額は四五五、四〇四、〇〇〇軒であつた。  
 而して一九二〇—二二年度の産糖は、精糖五、二二三、〇〇〇軒、分蜜糖一七九、一五七、〇〇  
 〇軒、マスコヴアド糖三二五、八九一、〇〇〇軒で、精糖及び分蜜糖の増加と、他方マスコヴ  
 アド糖の減少とは製糖所の御蔭であつた。一九二〇年には精糖は全體の〇・一％にも達しなかつ  
 たが、二二年には一％の高きに昇つた。而して分蜜糖は一九二〇年には二一％であつたが、二  
 一年には三五％となり、他方マスコヴアド糖は七九％から六四％に低下した。

今尙ほ利用し得べき廣大なる地積

「比島に於ては甘蔗の栽培に當つて今尙ほ廣大肥沃の土地を得る事が出来る。故に斯業は茲に  
 尙ほ魅力ある一の投資場を提供してゐるのである。而してミンダナオ島、就中コタバト、プ  
 キドノンの二縣と、ヌエヅァ・ヅィスヤ縣とは斯業發展に對して最大の新地積を提供してゐる。  
 砂糖は現時比島輸出品中其の第一位を占め、且つ本島農産物中此亦第二位に位してゐる。而  
 して砂糖の生産は、栽培面積の擴張、大農場ヘトラクターの如き機械類の輸入、進歩せる製糖  
 所の設立、改良外國種の輸入、科學的栽培法の民衆化、肥料の一般使用、より良き排水の便等  
 に依つて既に今日迄に増加を告げており、尙ほ將來も益々増大し得るのである。」  
 現在比島には三十の製糖所があり、其内十七はニグロス島に、呂宋島には八、バナイ島には

二、ミンドロー島には一つある。而して此等製糖所の大半(十六)は比島人に屬し、七箇所は西  
 班牙人に、四つは米國人に屬し、二箇所は布哇會社の投資になり、一つは和蘭會社の所有であ  
 る。之等の製糖所は何れも新式分蜜糖工場を運轉し、一九二四—二五年度の見積總産額は四八  
 三、三六七米突噸である。  
 此等製糖所の名前、位置、所有主、一日生産能率及び各自創業年度を示せば左表の如くであ  
 る。

製糖所名	位 置	所 有 主	取能率(噸)	創業年次
Asturias	Capiz	Asturias Sugar Central, Inc.	200	1911
Bacolod-Murcia	Occidental Negros	Bacolod-Murcia Milling Co., Inc.	17000	1910
Pais	Oriental Negros	Central Azucarera de Pais	17000	1910
Bearin	Occidental Negros	Kabanatuan Sugar Co., Inc.	250	1910
Rinalagan	do.	Rinalagan Estate, Inc.	1700	1911
Calamba	Laguna	Calamba Sugar Estate	1700	1910
Capiz	Capiz	Central Azucarera de Pilar	200	1910
Carman	Batangas	Vinda de P. P. & Her. de A. R. Roxas	200	1910
De la Rama	Occidental Negros	Esteban de la Rama	200	1910
Don Pedro	Batangas	Vinda de P. P. & Her. de A. R. Roxas	200	1910
Hawaiian Philippines	Occidental Negros	Hawaiian Philippine Co.	1700	1910

Isabela	do.	Isabela Sugar Co., Inc.	(比)	17,300	1917
La Carlota	do.	Central Azucarera de la Carlota	(西)	17,000	1910
Lanangub	do.	Esteban de la Rama	(比)	8,000	1910
Maao	do.	Maao Sugar Central Co., Inc.	(比)	17,000	1910
Mabacat	Panpanga	Mabacat Sugar Co.	(米)	100	1911
Mindoro	Mindoro	Mindoro Sugar Co.	(米)	17,000	1910
North Negros	Occidental Negros	North Negros Sugar Co.	(比)	8,000	1910
Nueva Apollonia	Oriental Negros	Nueva Apollonia Sugar Factory	(比)	8,000	1910
Palma	Occidental Negros	Salvador Serra	(西)	1,500	1910
Panpanga Sugar Dev.	Panpanga	Panpanga Sugar Development Co.	(比)	17,000	1911
Pampanga Sugar Mills	do.	Pampanga Sugar Mills	(米)	17,000	1910
Phil. Sugar Dev.	Laguna	Philippine Sugar Estate Development	(西)	8,000	1910
Phoenix	Tarlac	First Luzon Farmers' Association Inc.	(比)	100	1910
San Carlos	Occidental Negros	San Carlos Milling Co.	(布)	17,000	1910
San Isidro	do.	Vidaurazaga & Nola	(西)	8,000	1910
St. Louis	Pangasinan	Thomas Rouse	(比)	8,000	1910
Talasey	Occidental Negros	Esteban de la Rama	(比)	100	1910
Talasey-silay	do.	Talasey-silay Milling Co.	(比)	17,000	1910
Victorias	do.	Victorias Milling Co., Inc.	(比)	100	1911

備考 (比) 比律賓人 (米) 米國人 (西) 西班牙人 (布) 布哇人 (和) 和蘭人  
 (The Philippines Herald, Oct. 4, '25.)

### 佛領印 度支那

#### □新總督バレンヌ氏の聲明

アレキザンドル・バレンヌ氏はオーヴェルニエ共和社會黨員に向ひ、彼が此度印度支那總督就任を受諾したる理由、竝に、此地に於ける土人との融和、諸制度の改革に就て彼の新精神を傾倒するの意圖ある旨をラヂオに依りて演説爲したるがその要旨は次の如きものである。

種族を異にし、文化を異にする二住民に適應する改革案はこの相容れぬ二個の文明に相共通する様に作り且互に相提携してこの敗殘國の文化を束縛から自由へ、同化・接近・和解へと漸進的に進めて行かなければならぬ。

要之これは大いなる事業であるが併し又決して新規なるものでもなく、歴代總督は過去三十年間實際この方針の下に順次之を受繼いで今日に至つたのである。人は之を稱して共同政策といつてゐる。然し現在に於ては之國の文化も漸進的に改良され來り、その改革の初めより今日に至る迄には可成りの年月を閲したるを以て歐洲人と土人との關係は自ら正しき状態の確保を見るに至つた。勿論不幸なる例外もあるが概してこの印度支那人の如く統治上敬意を拂はれた植民地住民は他に殆んどその例を見ず、又改革せんが爲めに是程迄に努力された植民地も他にその例を見ること甚だ尠いのである。處が未だ尙その統治政策は光輝燦爛たるものではないと



言ふ人のあることは之を豫期し得る事が出来る。又疑ひも無くそれは事實であるが併しこの地の至るに於て非常なる進歩開發を見たのは實に佛人の干渉が始まつてからの事であるといふ事は誰しも否定し得る事の出来ない事實であらう。

秩序は確保され、裁判制度の確立を見、然も土民は前代未聞の割合を以て富の増加を示したのである。西貢に在る余の知人はこの事に就て最近未だ世に知られてゐない二個の數字を報告して呉れた。即ち、一八六〇年頃迄は米の輸出額は五〇、〇〇〇噸に達しなかつたが現今に於ては一、二〇〇、〇〇〇噸のそれを超過してゐる。

次にその地に於ける相異なる二住民(佛人・土人)間の關係如何といふに報告に據れば安南人は佛人に對して不埒不満を抱いてゐるとの事である。この事に就ての余の意見としては、彼等安南人は彼等の隣國印度に於て現在起りつゝあるの事實をよく考へなければならぬ。例之、英國の一著作家の會つて言へるが如く、印度に於ける英國人は既に存在するもの、上に更に新しき等級を作り尙彼地三億の住民の無智につけ込み之を壓迫するに傲慢と利己とを以てせりと實證してゐる。

之を或者は征服者心理と言ふ、或者は之を更に甚しき言葉を以て言表はせるも、如斯僞瞞的殖民政策が印度支那に行はれてゐるとか、在留佛人はこの地に於けるすべての政治的、社會的改良施設に對して反對意見を有してゐる等を信するのには全くの誤である。在留佛人は實際その

改革を心から望んでゐるのである。併乍ら彼等はこれ等の改革は國の文化の進歩と共に漸進的に行はなければならぬといふ事は之を知つてゐる。

尙植民地に於ては政治問題が他のすべての問題に先つて考へられるものであるといふ事と信するのにも又間違つた考へと言はなければならぬ。然もこの誤は佛人に於てすら時としては之を爲すものがある。復植民地に於ける土人の我殖民政策に關して有する希望は、完全無缺のものど考へられてゐる我々と同じ制度のものを欲してゐるものであるといふ事も亦誤りである。彼等土民の要求する民權とも稱すべきものは全くその歸著する所、彼等文明の先驅者であり、且又人道上の光明を彼等に與へんとするの盡力を惜しまなかつた我々佛蘭西人に對する彼等の常套的宣傳材料たる排基督主義の範圍を出でないものである。彼等は非常なる感情的人種なるを以て我々は彼等土人と歩調を共にするといふ事は全くの難事と言はなければならぬ。然も彼等が我々に接近しない理由は頗る單純である。唯我々が佛蘭西人なるが故にである、復、我々は彼等が多神教主義なるが故に之を排し彼等をば組織立つた目覺めたる國民になさんかために我々の制度を茲に移殖せんとするのを唯彼等は彼等個有の立場を我々が破壊せんとするものであるといふのである。

保護國民及被保護國民兩者眞の關係といふものは利益の上に一致しなければならぬ。余は

チユニス人マダガスカル人と同様に安南人に對しても彼等の過去に於ける缺陷、即ち彼等の人格・財産・幸福其他すべての物質的進歩の確保を彼等に與へんとするものである。余は茲に今迄の東洋文明を惡氣はないが排難し得る事の出來るものである。汽車・自動車にて旅行し得る人を見よ、又物に點火せんとする際或は物を暖めんとする際スウィッチ一つ捻れば事足りるを見よ。然るに藁屋下、土廓内に住居する下層階級者はこれ等文明の利器を見ても何等之を喜ばずして唯彼等は今迄の富、幸福を齎した東洋文明のみをこゝに入れんと望んでゐる。

要之植民政策の根本は恐らく細事を忽せにせぬといふ一事に歸著しないであらうか、現在印度支那の下層階級即ち土民識者の幾許に依りて主張されてゐる要求は一般人に採りては何等興味を惹くよすがとはならない。唯彼等一般人は彼等の田島が洪水を蒙りはしないだらうか、又灌漑工事が年二回作を爲し得せしむるであらうか否かを知りさへすればそれで満足してゐるのである。東京の如き人口稠密の國に於て特に缺くべからざる大公共事業、耕作可能地の擴張、又は社會救助事業特に醫料的救助事業、之等こそ我々が第一になさなければならぬものである。尙又初等教育問題も之を附加するの必要がある。其他事業は漸次之が著手を見るに至るであらうけれど安南人をして選舉權を得さしめる前には彼等に生活の安定を與へる事、即ち餓えたる者には食を與へ、常に彼等に見舞ふ災害、例へば天然痘・マラリヤ・結核・トラホーム・ペスト・コレラ等の如き大流行病より逃れしむる事等の如き生活手段を彼等に與へるのが先づ先決

問題ではなからうか。

如斯方針の下に之を考ふる時、その爲すべき事の益々多きに驚く。既に幾多の事業施設は之を見るも尙未だ爲すべき事は頗る多いのである。

パレンヌ氏はこの事に就て確固たる信念を持ち得る人である。印度支那に對して彼が爲し得る最善の仕事は印度支那に於ける大企業並に救助事業を完成せんとする計畫の下に著々これを進行せしめ行く方法を與ふる事にある。而してこの經濟的改革、運命の改良が行はるれば政治問題、心理的問題は自然次に來るものである。尙又、我々は土人の腦裡に利益といふ觀念を深く注入するの必要がある、蓋しこの利益は彼等の愛國心を促す基礎となるものであるからである。

(The Courier of Haiphong, Oct. 16, 25.)

### 馬來 半島

#### □英領馬來本年上半年貿易

近時原料護謨價の好況なる爲め前年同期に對し本年上半年英領馬來貿易は著増するであらうと豫期せられて居た。疑ひも無く輸出入總額は夫々五六、五八六、二二三磅、四八、七六九、二〇〇磅に上り、前年同期は各輸出四〇、二二八、八八二磅、輸入三六、五八四、七三三磅である。

然るに此の如く増加した理由は英領馬來の二大輸出商品たる護謨及錫・錫礦の市價高騰のみ

第百五十八號  
には歸せられない。次表は前記二箇年上半期貿易を比較したものである。(單位磅)

品名	一九二五年增加總價額		一九二四年增加總價額	
	同	前年	同	前年
總價額	1,925,000	1,925,000	1,925,000	1,925,000
同	1,925,000	1,925,000	1,925,000	1,925,000
一九二五年增加總價額	2,384,573	2,384,573	2,384,573	2,384,573
同	2,384,573	2,384,573	2,384,573	2,384,573
一九二五年增加總價額	3,526,916	3,526,916	3,526,916	3,526,916
同	3,526,916	3,526,916	3,526,916	3,526,916
一九二五年增加總價額	5,766,432	5,766,432	5,766,432	5,766,432
同	5,766,432	5,766,432	5,766,432	5,766,432
一九二五年增加總價額	10,117,038	10,117,038	10,117,038	10,117,038
同	10,117,038	10,117,038	10,117,038	10,117,038
一九二五年增加總價額	16,207,651	16,207,651	16,207,651	16,207,651
同	16,207,651	16,207,651	16,207,651	16,207,651
一九二五年增加總價額	26,025,411	26,025,411	26,025,411	26,025,411
同	26,025,411	26,025,411	26,025,411	26,025,411
一九二五年增加總價額	37,707,626	37,707,626	37,707,626	37,707,626
同	37,707,626	37,707,626	37,707,626	37,707,626
一九二五年增加總價額	61,207,651	61,207,651	61,207,651	61,207,651
同	61,207,651	61,207,651	61,207,651	61,207,651

(The Times Trade and Engineering Supp. Sept. 12, 25.)

### 南洋企業に對する考へ方の變化

非常に遠き昔は別として、日本人が南洋に着眼してより以來、今日まで蹈んで來た經路を見るに、大體に於て三期に區劃する事が出來ると思ふ。第一期は冒險時代又は一攫千金夢想時代で、第二期は企業濫興時代、第三期は整理時代である。第一期には南洋と云ふものゝ真相は勿論、皮相をすら知らなかつた時代である。南洋へ行けばダイヤモンドがころがつて居て無主の土地が幾らでも獲得出來る、あはよくは島の王様位にはなれると考へた時代である。此の時代の事業(或は事業と稱する事の出來ないものもあるが)として着眼されたものは、黄金・ダイヤモンドの採掘・採集・特殊商品の賣買・婦女賣買・無人島占領及探險等である。金やダイヤモンドの採集と云ふ様な事業は、實際は大資本を投下して科學的にやる可き性質のものであるから、一人や二人の人間が山の中をぶら付いて見た所が伸々甘い結果が得らるゝものではない。結局經費倒れになる事と根が盡きてしまう事とにより多くは失敗に終つたのである。特殊商品を馬鹿に高價を以て土人に賣り付け、又は土人が所産を馬鹿に安價で買入れる事は一時的には成功した場もあるが、他に競争者の出來る事と、土人の自覺とによつてこれも永續しなかつたのである。婦女の賣買はこれによりて利益を得た者は甚だ多い、又此の犠牲になつた女性も随分多いのである。而して此の仕事は比較的に永く續いた。然し法律の完美と取締の嚴重と並に婦女の自覺とは、所の密航婦取扱ひによる利益を減殺して、今日では此の例は極めて稀になつた様である。

南洋では男が女を基として利益を獲得する方法はだん／＼變化して來た。則ち男がするくなくつて來て、昔は密航と言ふ方法によつたが、近頃は自分の女房に密淫賣をさせ、これによつて飯を食つて居る不心得の男が多くなつた。是等の第一期時代の代表的思想たる冒險的且一攫千金式思想は、未だ南洋を知らない内地の人々の頭の中には存在して居るのである。それで時々殆んど當もなくして南洋に飛び出し、結局領事館や各地の日本人會に厄介になる者も少なくないものである。吾々は内地の人々に南洋とはそんな出鱈目な所でない事を知つてもらいたいと思ふ。

第二期時代は事業濫興の時代である。農業栽培方面なら其の園の位置・地味・勞働供給・租税・關稅・生産物の市價・生産物需給・運輸關係等事業遂行の上に重大關係を及ぼす可き諸要件をよくも考へずに、採算を無視して事業を起したのである。又商業方面から云へば、需給を深く考へず又取扱ふ商品を考へずに、むやみに輸出入をやつたのである。この時代は幸に世界の景氣がよかつたから實際深く考へずに出たらめによつても相當の利益を得る事が出來たのである。此の時代に最も甚しかつたのは、内地の資本家を欺いていゝ加減な事業に投資させ又は事業のブローカーをやつて利益を得た者の多い事である。又事業地經營についても至つて放漫なる方法が行はれた。是等の結果不景氣時代に入りて大部分の企業は閉塞するの已むなきに至り、内地資本家は南洋の事業にはコリ／＼してしまつたのである。其所で第三期の整理時代に入つた。

これが今日までの有様である。而して今日では大體に於て各會社も商店も人員の淘汰、事業方針の一定、資本減額等によりて整理も一段落となつたのであるから、此後は此の不景氣時代整理時代に得たる健實なる精神に基いて、更に積極的方針を以て進む可き時代に入つたのである。然らば今後企業計畫に於て如何なる點に留意す可きやと言ふに、先づ農事企業方面に於ては

- (一) 科學的經營方針を取り、出鱈目を戒むる事。
- (二) 資本に伴はざる大規模の事業を起す事を戒むる事。事業的の虛榮にかられて徒に大規模の事業を企つるは愚なり。結果資金に窮して事業を中止するに至る可し。
- (三) 栽培目的物と事業の規模の大小を考へ合する事が必要である。或種の事業は大規模なるを利とし、或種のものには小規模なるを利とする。事業の Typical Magnitude を考へ可きである。
- (四) 栽培目的物の世界的需給關係を考察し、比較的市價の下落の憂ひ少なきものを選択する事。一種栽培に代ふるに二種以上の栽培物を選択して市價變動に伴ふ危険を平均緩和せしむる事。
- (五) 栽培目的物の種類に従つて南洋の如何なる地が好適なるかを考察する事。
- (六) 地味の選擇に留意する事。
- (七) 交通運輸の關係に留意する事。
- (八)

(九) 生産物の販賣については出来得る限り *High Price* の方法を取り利益を平均せしむる事。  
 (十) 現場に働く人々の智識及其他の點に留意し、其の取り合せを巧にして能率増進の方法に出で、感情及情實による幹部採用の方法を避くる事。

(十一) 支配人の権限を増大し、臨機の處置を取らしめ自由の手腕を振はしむる事。  
 (十二) 本社内地にある場合には本社と現場との連絡を完全に保つ事。

(十三) 本社は常に金融に留意し、現場の活動を阻止せざる様にする事。

次に鑛業方面については、上述の條件がやはり大部分適用出来る譯であるが、特に注意すべきは黄金・ダイヤモンド・石炭・石油・鐵と云ふ様なものよりも、寧ろ *Secondary Metal* 類に着眼する方法がよいと思ふ。其の理由は企業が稍小規模で出来る事が利益である。特に南洋に於ては未だ錫事業は有望である。商業方面については二つの點を注意し度いと思ふ。第一は投機に徹底するか又は實物取扱に徹底するか、何れかに定めた方がよいと思ふ。例へば護謨の如きものも、投機に徹底すれば買つても買つても危ないと思へば早く逃げる事が出来る、從て其の損害も素人が考へて居る程に大きくはない。現物取扱を兼ねる場合には中腰になるために稍もすれば大きく引つかゝる憂がある。又本社あたりの方針と云ふ様なものゝために投機に徹底する事が出来ず、それかと云つて相場が大きく動けば經費を取りたいために本社からは暫定的の投機を

やつてよい命令が下る事があるため、却つて方針を守る事が出来ず、どつちともつかない事になる恐れがある。第二は南洋貿易と云ふと日本と南洋を連結させる事を考へるが、商業方面から見ればこんな窮屈に考へる必要はない。産物を要求しない市場へ出した所で賣れる譯はないのであるから、例へば輸出ならば、外國市場と南洋市場とを連絡させて南洋貿易なるものを一般に廣く考へる必要があると思ふ。此の場合には營業方針を地理的に廣くする譯となるのである。之を要するに、第四期即ち今後は投資する者も經營する者も南洋の地方的事情と事業の特殊性質とを出来得る限り知悉して置いて、用意したる態度を以て企業を進歩せしむ可きである。

(新嘉坡商品陳列館報第百四十六號)

### □ 本年上半期の新嘉坡市場輸入石炭

本年一月以降新嘉坡市場へ輸入された石炭の量及金額は次の如し。

一	月	四三、七三九噸	五五二、三三五弗
二	月	二五、〇〇四噸	三一四、七三三弗
三	月	六二、一四七噸	八二八、九〇三弗
四	月	五二、六二九噸	六六三、一七〇弗
五	月	五〇、五一噸	六九七、六八六弗

第百五十八號

第百五十八號

六 月 三〇、一七六噸  
七 月 四八、〇〇二噸

四〇二、二三六弗  
六二八、二八六弗

昨年(一九二四年)度の輸入量及金額は六十七萬三千九百六十一噸、九百九十一萬二千七百七十一弗で、其の内譯は左の如し。

英 本 國	四四、一七八噸	七五九、三三四弗
英領ホルネオ	三、一六五噸	三〇、九一五弗
ブルネイ	七、六七〇噸	九五、八七五弗
英領印度及緬甸	六、九五五噸	一一一、七一一弗
香 港	六、六八噸	二四、三九五弗
南 洲	七九、四九七噸	一、二五五、九七八弗
南 阿 那	二六五、七九九噸	三、九七八、八七六弗
支 那	四七、一三七噸	六七〇、八九二弗
佛領印度支那	五、五八〇噸	八六、三四〇弗
日 本	五二、九六九噸	七四八、七六三弗
蘭領ホルネオ	八〇、六一三噸	一〇二八、五一八弗
蘭領スマトラ	五五、七四九噸	七八二、八五一弗
其 他	二三、九八一噸	三二七、七三二弗
合 計	六七三、九六一噸	九、九一二、二七一弗

(新加坡商標列館報第百四十六號)

### 蘭 領 東 印 度

#### □一九二三年度蘭領東印度の油椰子煙草及 珈琲の栽培面積 (三)

##### 三、珈 琲

一九二三年に於ける珈琲園總數は、一九二二年の三七〇に對し三六三にして内爪哇二七三、外領九〇の割に存在す。前記の減少は珈琲園の合併又は護謨との混作園より年々伐除せらるゝに基因する所にあらず。珈琲園の最も多く存在する地方はケチリ、バスマラン、ベンギにして、各四五、五六及七六の珈琲園を有し、又外領に於ける合計九〇園の内七二はスマトラに在り、純珈琲園は單に三六にして、内爪哇は二二園を占め居るなり。而して残りの過半数は混作園なり。

三六之園の總面積は八五六、〇三バツにして、内植付面積及珈琲植付面積は各々二八四、四〇六及一七二、〇八六バツなり。

之れを按ずるに、蘭領東印度に於ける珈琲園の約三三パーセントは他の歐人作物を、又約二〇パーセントは珈琲を以つて植付られ、合計總植付面積の六〇パーセントを占め居るなり。以上のパーセンテージを爪哇及外領に區分する時は、各三五、二二、六五、及二八、一五、五四

第百五十八號



となり、又爪哇に於てはパタバヤを除く政府所有地に於ける比率は六七、四六、及六八なり。前記よりして見る時は、パタバヤ及侯領に於て如何に擴大なる土地を珈琲栽培に使用し居ると雖も、爪哇に於ける全植付面積に對する珈琲の占むる面積の大差なきを見るは注意す可き事實なり。

此事實は殊に東部並に中部爪哇に適用するを得べく、當地に於ては珈琲は非常に少く全く他の農作物により壓迫せられ居るが故なり。

此處には純珈琲園は一箇ブリアンゲルに存するのみにして、四二バウの面積を有するのみなり。

外領に於てはボルネオ東南部に存する二二バウの小園を除く外は全部スマトラ及セレベスによりて、外領兩地に於けるパーセンテージは各二九、一五、五四、及二七、一五、五五にして、主要栽培地はスマトラ東海岸スマトラ西海岸及メナドなり。

メナドに於ける状態は、爪哇の官有地と殆んど同様にして、パーセンテージは五三、四一、七八にして、本指数は當地に於ける珈琲栽培業の比較的古くより(總植付面積の比率高)行はれ居たる事を立證するものにして、本地方の重要物産たり。

又スマトラ西海岸に於ては、珈琲園の大部分未植付の状態にあれども、珈琲は當地に於ける

主要産物(六七パーセント)にして、而して當地の七倍の植付面積を有するスマトラ東海岸及アチェは、單に全植付面積の四三パーセントを占むるに足らざるなり。

蘭領東印度總植付面積は一七二、三二六バウにして、内一三五、七七〇バウは爪哇に(東部爪哇一〇四、四六八バウ)、三六、三二六バウは外領(スマトラ三二、九七〇バウ)に在るなり。

非混作地は爪哇六二、六六〇バウ、外領一八、七六一バウにして、混作地は爪哇七一、二五二バウ、内ヘビア種六一、八八九バウ、外領一七、五五五バウ、内ヘビア種一三、六〇一バウなり。

總植付面積一七二、三二六バウの内一四二、九四一バウは生産可能にして、其割合は爪哇に於ては一三五、七七〇及一一五、六七〇バウ(約八五パーセント)、又外領に於ては三六、三二六及二七、二七一バウ(七五パーセント)なり。之れに依り外領の珈琲は、爪哇のそれよりも若きことを知るを得るなり。

東部爪哇は八七パーセント生産可能にして、又スラカルタ及ケチリは爪哇に於て混作植付より純作植付面積の大なる唯一の地方なり。外領に於てはバレンバン、ベンクレーン、スマトラ西海岸及メナド地方之なり。

一九二〇年以來蘭領東印度に於ける珈琲栽培面積は漸次降下し、現今に於ては上述年度より二二、〇〇〇バウ減少し居るなり(一九三、〇〇〇バウより一七二、〇〇〇バウに)。

混作植付の分は二〇八、〇〇〇より約八九、〇〇〇バウに下り、即ち約一九、〇〇〇バウの減少を見せ、純作植付の分は八五、〇〇〇バウより八三、〇〇〇バウに下りたるのみにて、僅か二、〇〇〇バウの差を生せるのみなり。  
混作珈琲減退の大部分は混作物として切除せらるゝに因り、純作の部は一は老樹伐採他はボク等の植物病に基因するものなり。

A 産 額

比較的正確なる指數を得んが爲め爪哇、マヅラ及外領に於ける企業園と土人生産額とに別つと共に次の統計を總合せん。

- 一、外領の對外國輸出高
  - 二、外領より爪哇への輸出高
  - 三、其他の外領地方への輸出高
- 但し再輸出を爲す各港への移出を加入せず。

珈 琲 産 額 (單位ピコール)

年 次	企 業 園 産 額			土 人 生 産 高	總 計	對 外 輸 出 高
	爪 哇	外 領	合 計			

一九二八	二七、七六	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九二九	二五、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九三〇	二二、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九三一	二〇、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九三二	一九、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九三三	一九、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇
一九三四	一九、〇〇	一三、〇〇	一、〇九、〇〇	一、二七、〇〇	一、二八、六〇

上述の如くして計算したる過去六箇年間に於ける總産額は約一〇〇、〇〇〇ピコールにして、輸出總額は五、三〇〇、〇〇〇ピコールとなるなり。即ち從來の在庫品を却除するも猶島内需用として一、八〇〇、〇〇〇ピコール残留し居る都合なり。

爪哇に於ける需用數量を計上するには、外領の對爪哇移出量と爪哇の産額とを加算したる數より爪哇の對外國輸出高を却除せざるべからず。之を示せば左の如し。

一九一八二三年に至る爪哇の産額	三、八五二、四五七ピコール
外領より爪哇への移出	一、七七〇、六七六ピコール
合計	五、六二三、一三三ピコール

爪哇の對外國輸出

四、〇六八、八〇〇ピコル

之を差引する時は、爪哇の需用數量一、五五四、三三三ピコルを得るなり（九六、〇〇〇、〇〇〇研）。

即ち九六、〇〇〇、〇〇〇研となるが故に土人、支那人、歐洲人合計一年に於ける一人宛平均消費量は二、五研となるなり。而れども該數量は一月一日及十二月三十一日現在の爪哇に於けるストックの如何に依り多少高下するものなり。

一九二三年に於ける企業園の生産高は八二五、三二八ピコルにして、内六八七、三六七ピコルは爪哇より産出せられ、爪哇の生産高中東部爪哇は五九一、〇八七ピコル即ち全爪哇産額の八六パーセントを及總生産高一、一九九、八二二ピコル（土人生産を含む）の五〇パーセント、全企業園産額八二五、三二八ピコルの七二パーセントを産出せり。

珈琲の産額は年により上下し、本年度に於ける企業園産額は昨年より多かりしかど、土人産額は之に反し減少せり。外領に於てのみ行はるゝ土人珈琲の産額は、全産出高の三一パーセント及全企業園産額の四五パーセントに達し居るなり。

B 輸出

年	次	世界輸出高(百萬冠)	蘭印輸出高(百萬冠)	世界輸出高に對する蘭印のパーセント
一九二二	九	七五八	三三三	四三
一九二一	九	二五四	三三三	六四
一九二〇	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一九	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一八	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一七	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一六	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一五	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一四	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一三	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一二	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一一	九	一〇九八	三三三	三〇
一九一〇	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇九	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇八	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇七	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇六	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇五	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇四	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇三	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇二	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇一	九	一〇九八	三三三	三〇
一九〇〇	九	一〇九八	三三三	三〇

之に依れば蘭印の産額は世界産額の五パーセントを占め居るなり。

輸出額は總生産額とは多少其數を異にす。一九一八年に於ては搬出不活潑の爲め非常に少く、故に一九年には多量の在庫品の流出を見たり。一九二一年に於ては價格低落の爲め輸出額は生産より非常に少く、二二年に至り再び増加し生産額を凌駕するに至りたり。之れ即ち二二年度の在庫品の流出に基因する所にして、二三年は比較的少量なりしなり。

C 世界産額

世界市場に於て蘭領東印度珈琲は如何なる地位を占め居るやを見るに、米國商務省のカムマーンウェルス・リポーツに發表せる蘭印並に世界輸出數量に依るに大約左の如し（但し二二年度に於ける數量は不明）

ロブスタ珈琲

一九二三年に於けるロブスタ珈琲栽培園數は三三七にして、蘭領東印度に於けるロブスタ種栽培面積は一五四、三八四バウにして、内一二八、四〇四バウは生産可能の域に達し居り、之を爪哇、マヅラ及外領に割當つる時は、爪哇マヅラに於ける植付並に生産面積は各一二四、五一五バウ及一〇六、一六四バウにして、外領は二九、八六九及二二、二四〇バウとなり、此兩地方に於ける植付面積に對するパーセンテージは爪哇九〇、外領八〇にして共に生産面積に對して同様の比率を示す。

主要栽培地は東部爪哇にして、全純作面積は全混作面積より狭くして各六八、〇四八バウ及八六、三三六の面積を有す。殊にケヅリ、ソロ、マデオン、ケデリ、バレンパン、ベンクターレン、スマトラ西海岸及メナドに於ては其差甚し。

各種珈琲の混作を爲す二、〇〇八バウの植付地は全部ロブスタ種と他の一種又は數種と混作を爲すものにして、八六八バウはロブスタとリベリア種、一、一四〇バウはロブスタ、リベリア及其他の種類とを混作するものなり。

一九二三年に於けるロブスタ種の産額は一九二二年の六〇〇、五七五ビョールに對し七七四、五六四ビョールにして、爪哇全島のみにて昨年より一四五、〇〇〇ビョールの増收を見たり。

一九二〇年以來企業園數の減少、純作園の増加(極少)、混作面積の激減等一般に植付面積の縮小を見られたれども、産額は敢て悲觀するに足らざるなり。

リベリア珈琲

リベリア種を栽培する園數は三三三にして、全植付面積は二四、〇〇九バウ即ち全珈琲の八〇パーセントを占め、主要栽培地はバタビヤ(六、八二八バウ)、ベカロンガン(一、九七三バウ)、スマラン(一、三四七バウ)、スマトラ東海岸(二、〇九五バウ)にして合計上記地方全植付面積の八七パーセントに達し、産額も全産額一七、三二五ビョールに對し一四、六六三ビョール即ち該地合計産額の八五パーセントを占め居るなり。

全植付面積中九、九六八バウ即ち七一パーセントは生産可能にして、又混作植付面積は總體に於て純作植付面積より大なれども、外領に於ては之に反す。

混作地に於ける生産の純面積(六八パーセント)は純作地のそれ(八二パーセント)より少く之れは混作地の珈琲樹は純作地のものより若年なるに依るなり。

爪哇珈琲

爪哇珈琲栽培園は四四にして、其植付面積七、八二八バウ(一九二三年に於ては九、一九〇バウ)、内六、六二三バウは生産可能なり。大部分は純作植付にて、其面積七、四六一バウにして、

混作植付面積は四、二六バウなり。内二三バウは爪哇(バスマラン)にありて全部ヘビア種と混作せられ、残りの四〇三バウ(全部雜農作物と混作せらる)の内二〇バウを除く外は全部スマトラ西海岸に存す。

ヘビア種との混作地は前記二三バウのみなり。

爪哇珈琲の主要栽培地は東部爪哇(爪哇の五、六七二バウの内五、六〇一バウ)、外領に於てはメナド(五七九バウ)、スマトラ(パレンバン、ベンクレーン及スマトラ西海岸合計一、五六一バウ)なり。

産額は一八、八六七ピコール(一九二二年に於ては二九、〇九三ピコール)にして、内一四、四一〇は爪哇より産出せられ、其内一四、三二六ピコールは東部爪哇(爪哇産出高の九九パーセントにして、全産額の七六パーセント)よりの産額なり。

● 其他の珈琲

雜多の珈琲を栽培する園數は一九二二年の五七に對し五二にして、其植付面積は一九二二年の八、四五二バウより六、八一バウに減退し、生産可能面積は五、九五二バウより五、七二三バウに減じたり。

全面積六、八一バウの内五、六二〇バウ即ち八七パーセントは爪哇に在りて、西部爪哇には

八バウあるのみにして又外領の一、一九二バウの内一一バウを除く外は全部スマトラにあり。

三、七五二バウの混作植付の内八七八バウはスマトラにありてヘビア種と混作せられ、他は全部爪哇にあり。

珈琲植付面積の減退は、主として以前本項に掲ぐべき植付面積の現今ロブスタ又は他種との混作地として變更せられたるに因るものにして、本年に於ける産額は一九二二年の一四、〇八七ピコールに對し一四、五七八ピコールにして、爪哇よりは一一、二〇〇ピコール、外領よりは三、三七八ピコール産出せり。(移)

(蘭領東印度南工農務部週報第一二四號)

□ 蘭領東印度經濟界概観

從來蘭領東印度の輸入貿易は不振の極に達しおりしが今や漸く其回復期は到來し、積年の希望なりし好景況は來るべき十二箇月間に現出するものと豫測せらる。

何となれば蘭印諸島に於ける輸出は、二三の例外を除き、過去一年間に於て非常の好景氣を維持したれば、久しからずして此れは、長期間に亙り不況を脱す能はざりし輸入に其反映を與ふるものと豫期せらるればなり。一九二四年は同諸島輸入業者及同島向外國輸出業者に採り甚だ芳しからざる年なりき。然し中には二三好況なりしものあるも一概に云ふときは満足すべき何等の事由を凡ぞ見出す事能はざりき。漸く一九二三年末に至りて、各倉庫は何等の滞貨も

漸く無きに至りしが同年末に至る迄此等滞貨は輸入を萎縮せしめたるに大いに與つて力あるものなりき。

安定期漸く近し。

其結果比較的強制的賣却は行はれざりしが、一方前報に鑒みて新物註文も廣く發せられざりき。設立古き各會社は其基礎を強固にしたれば將來は必ずや好況なるべしと期待さる。然れども大會社の健實なる營業方針は小會社にとりては非常に迷惑多きものなりき。即ち古品が市場に賣買され居る間、此等の小會社は長期間ストックされ且數年間觸れざりし品物を取引せざるべからざりき。斯の如くして大會社の態度が決定せざる間小會社は輸入に何等の進捗を見ざる結果古物及賣行宜しからざる商品を受取らざるべからざるなり。

歐洲に於ける政治的不安定及び不規則なる爲替率は一層輸入業者の困難を増さしめたり。英本國が關はる所に於ては爲替は無暴な高底を見ず、磅は過去の或る時に於て殆んど動くことなかりき。

何となれば英國製造業者及商人の價格は蘭印諸島の貿易を考慮する際には必ず組入れらるべき要素なりければなり。大多數の土人は最善の市場の供給するものにして、此に對して英國は物品を供給せざるべからず。蘭領東印度の輸出業は一年間は繁榮を續けたりしが之の反動は唯

東洋人民の購買力を増加せしむるのみである。歐洲人農場に使用せらるゝ土人は労働需要の増加を發見しつゝあり又一方彼等自身の栽培を支配遂行する人々も相當利益を收めつゝあり。斯の如くなれば必ずや金錢消費及び貿易促進の機會必ずや開進せらるべし。

輸入中英本國輸出の分。

一九二四年度に於ける實際輸入價格は未だ利用せらるゝに至らず。一九二三年を以て終る前三年間に於ては、英國より蘭領東印度へ輸出せるものは總輸入額の減少と共に減少したれど、英國輸入持分の全輸入に對する割合は一九二一年には一三・四、一九二二年には一四・七、一九二三年には一五・〇%と漸次増加の傾向を示めせり。此は即ち蘭領東印度諸島と英國との貿易が満足なる結果を見て漸次進捗しつゝある事を示すものにして又一九二四年に於ても此割合より下る何等の理由を見出すに困しむものなり。然して此等の割合は英本國より直接輸入に係るものである。聯邦王國輸出品の或る量は和蘭を経て東印度諸島に送付され一方大量のもの新嘉坡にも輸出されるのである。然るに茲に注目すべき一現象あり。即ち蘭印諸島に對する和蘭本國の輸出減少之なり。即ち一九二三年に於ては總輸入量の二七・五を占むるのみにして一九二一年の英國の二一・六より多き事僅か五・九%なりき。

國民議會開會の當初に於ての總督の演說中諸島商業貿易を阻止するが如き加税の聲明なかり



しが又最り以上の救済方法を講せらるべき聲明もなかりき。即ち貿易者は既に幸運なる諸國との競争を困難ならしむる苛酷の税金を課せられ居れり。其と同時に現在賦税よりの救済さるべき何等の暗示なく又此方面に對し相當方法が採用せらるゝなれば輸出入貿易上に回復の曙光を與ふるものなり。

蘭領東印度に於ては將來爲さるべき建築事業多く、莫大なる金額が鐵道、灌漑、水力及電氣等に割當てられたり。來るべき十二年或は十五年間に各設計に對して一五〇、〇〇〇、〇〇〇盾支出せらるべし。發展は蘭印諸島諸方面に於て見られ、就中最大豫算を請求せるものは鐵道建設費一五、〇〇〇、〇〇〇なり。

鐵道延長計畫は將來英國機械業者により好市場を與ふるものなるべし。

(The Times Trade and Engineering Suppl. ment, Sept. 19, '25)

### 英 領 印 度

#### □ 孟買反物市場と輸入の増加

孟買反物市場の消費高は非常なる膨脹をなせり。一九二四—二五年孟買海運報告は反物全輸入を二六五、〇〇〇、〇〇〇留比とし、前年度より八、七五〇、〇〇〇留比の増加を示めせりと報せり。然して其中色付反物は七〇、〇〇〇、〇〇〇留比、生木綿反物四六、〇〇〇、〇〇〇留比晒反物四三、〇〇〇、〇〇〇留比なりき。英本國より輸出の分は全輸入の七十四%を示め、日本の

分は十七%なりき。生木綿反物の輸入は前年度の退減より幾分回復を見たるも日本よりの輸入は布敷布・綾金巾及綾織綿布の供給少なりし爲め却て前年度六十七%より五十四%の減少を示めせり。生木綿中の襪襦袢衣地及び布敷布は重に日本よりの輸出に係るものにして襪襦袢は六、八〇〇、〇〇〇留比より二〇、三〇〇、〇〇〇留比の増加を示めせるも、布敷布は九、一〇〇、〇〇〇の減少を示めし一〇、〇〇〇、〇〇〇留比を示めせるなり。晒反物の輸入は八、〇〇〇、〇〇〇留比即ち四二、九〇〇、〇〇〇留比の増加を示めせるも英國は此中九十%を占む。色付反物輸入は七、五百萬呎の増加を示めせるも、價格は四〇〇、〇〇〇留比だけの減少をなせり。

日本品對ランカシャイヤー品。

綿織絲輸入は四、〇〇〇、〇〇〇封度の増加をなし二七、〇〇〇、〇〇〇封度となれり。將來日本の地位は非常に注目すべきものあり。最近に至る迄日本は重に下級番手特に二十一乃至三十番手に於て競争をなせり。然るに一九二四—二五年に於ては、日本の下級番手絲の輸出は減少し三十一乃至四十番手品は七、〇〇〇、〇〇〇封度の増加をなし、一〇、五〇〇、〇〇〇封度を示めすに至れり。又五十一乃至六十番手の輸入一、〇〇〇、〇〇〇封度の三分の一は日本よりの輸入にして前年度に於ては全然なかりしものなりき。孟買州に於ける紡績工場は、漸次番手は向上しつゝありと雖も、二十六番手以下のものなり。故に下級番手日本品との競争は容易なる

なり。上級番手日本品の廉價なることはランカンシャイヤー品に採り多大の痛手ならんば非ず。日本よりの總輸入額は前年度に比し三、五〇〇、〇〇〇封度の増加、一八、〇〇〇、〇〇〇封度を示し其價格も五、九〇〇、〇〇〇留比の増加、二六、四〇〇、〇〇〇留比を突破するに至れり。他方重に高級番手のみなる英國の供給は八、五〇〇封度の減少を來せり。

棉花の輸出。

孟買よりの棉花輸出は近年多大の増加をなせども、一九二四—二五年は前年度五四五、〇〇〇噸に比し四二二、〇〇〇噸となり、従つて價格も七六ノクロール留比より六三ノクロール留比の減少をなせり。印度棉收穫期は遅く又品質も劣る。西班牙を除く各歐洲諸國は前年度より孟買より輸入少なく日本への輸出も又昨年度記録より少く四六、五〇〇噸なりき。然れども之は一時的現象なりと觀測さる。

棉花の價格の下落及日本商品の競争あるために印度棉布價格の下落は却て同國綿布の海外貿易の發達を來し、彼斯・メンポタミヤ・亞刺比亞・埃及及東洋・南阿弗利加の各國は印度反物の好顧客となれり。全輸出額は一七、〇〇〇、〇〇〇碼の増加即ち一四三、〇〇〇、〇〇〇碼を示めせり。色付反物は七十二%を占め生木棉反物は二十八%を占む。彼斯は色付反物の最顧客にして、メンポタミヤは生木棉反物の最顧客なり。(Chinese Trade and Engineering Supplement, Sept. 12, 25)

□一九二四年度船籍別比島船舶出入表 其二

船籍	出		入		積取輸出貨物 噸	積取輸入貨物 噸	價額(比)
	純	空	純	空			
米比英支丁和佛獨伊日諸巴四瑞鄧	一七	一	一	一	一	一	一
比島國	九八	一	一	一	一	一	一
那國	一七	一	一	一	一	一	一
抹那國	一七	一	一	一	一	一	一
蘭國	一七	一	一	一	一	一	一
暹國	一七	一	一	一	一	一	一
國	一七	一	一	一	一	一	一
本國	一七	一	一	一	一	一	一
威馬	一七	一	一	一	一	一	一
牙典	一七	一	一	一	一	一	一
班奈	一七	一	一	一	一	一	一
計	三三	一	一	一	一	一	一
合	三三	一	一	一	一	一	一

(馬尼拉港務局一九二五年馬尼拉港年鑑)